

日本語インターンシップ・プログラム報告書

研 修 生：山根周作

研修場所：中華人民共和国（香港）

香港城市大学専上学院 語文学部

実習担当の先生方：高橋先生、村上先生、堀部先生、多賀先生、高田先生、青山先生、瀬尾先生

期 間：2012年2月26日～3月23日（27日間）

実習時間：650分（13コマ×50分）

見学時間：1150分（23コマ×50分）

費 用：3～5万円（食費、交通費などの生活費のみ）

※航空運賃、宿泊費、海外旅行保険代は国際交流基金からの補助で不要

◇実習したクラスについて

教 材：みんなの日本語初級ⅠとⅡ

レ ベ ル：初級前半～初級後半

人 数：20～25人

授業内容：会話練習、文法説明

授業は、文法の意味、使い方を教える授業とその文型を使った会話練習の授業とにわかれていた。実習は主に会話のクラスで、文法の授業は2回ほどであった。レベルは、まちまちでこの大学に入学してから始めた人と入学前から勉強していた人など、かなりの差があった。初級以上のレベルの生徒もたくさんいた。

◇スケジュールについて

日曜日に香港へ、月曜日から研修が始まる。1週目は見学のみ、2週目から実習が始まる。研修初日と研修最終日に懇親会があった。懇親会の参加者はJIP担当の高橋先生と専任の先生方、数人の非常勤の先生方であった。学生との交流会は、本校と分校で2回あった。

◇学校について

香港城市大学専上学院には本校と分校がある。本校、分校とも地下鉄の駅の近くにあり、通うのには便利だった。実習生の私は、非常勤の方の控え室になっている部屋に席をいただいて、そこで準備などをしてきた。その席にはパソコンも一台あり、それを使ってメールやインターネットも可能であった。

◇ホテルについて

地下鉄の駅から、歩いて五分と近く、便利であった。部屋は狭かったが、短期滞在では十分だった。

◇香港の気候など生活について

香港は思った以上に寒かった。香港に着いてすぐの時は、日本よりやはり暖かいと感じたが、日が経つにつれ、体が慣れ寒く感じる日があった。湿気は多いように感じた。ホテルでエアコンを付けていて

も、部屋が乾燥せず、洗濯物が乾きにくい日があった。洗濯は、桶と洗濯洗剤を買って、浸け置き洗いですましていた。

食事は、外食をしていたが、安いものから高いものまであった。1回の食事で、安いのは20香港ドルからあり、大学の食堂もそのぐらいの値段で利用できた。

オクトパスは買ったほうが良い。オクトパスは電子マネーで、交通機関やスーパーで使うことができる。地下鉄は毎日利用するので、1回1回切符を買うより便利で、切符より少し安くなる。バスはちょうどどの値段を払わなければならない。ちょうどの小銭がなければ、お釣りはもらえないので、オクトパスがあればそのようなことは避けられる。

◇香港での1日・実習について

私は朝から大学へ行っていた。午前に見学、実習がなくとも9時半ごろに大学の非常勤のオフィスへ通っていた。昼は大学の食堂で食べていた。12時以降は非常に込むので、11時半ごろ食べに行っていた。非常勤の先生と時間が合うときは、昼ご飯や晩ご飯をいっしょに食べに行った。夕方は6時ごろ大学を出ていた。オフィスにいと、非常勤の先生方が来られるので、その時に香港の日本語学習事情、香港の日本語教師事情、香港の生活についてなどいろいろなことについて話すことができた。

実習のとき、その担当の先生と納得いくまで話し、内容を詰めていった。お忙しくて、なかなか話す時間がない先生もいらっちゃって、その時はメールで連絡を取り合っていた。実習のクラスは、ほぼ全てが1回きりの授業なので、楽しい授業、笑いのある授業を心がけた。実習の後はたいがい、私の授業について、担当の先生とお話しして改善点を聞いていた。実習後に時間がない時は、後日メールでコメントをいただいたり、自分で反省文を書いたりしていた。

◇感想

実習や見学は非常に役に立った。特に見学は、さまざまな先生方の授業が見ることができて有意義であった。同じ『みんなの日本語』という教科書を使っているけども、いろいろな授業の仕方、教科書の使い方があり、今後の私の授業に取り入れたいことがたくさんあった。

また、たくさんの先生方と知り合い、お話をできたことは、財産になった。専任の先生方は少ししかお話しできなかったが、非常勤の先生方とは、様々なことについて話すことができた。

高橋先生を始め、専任の先生方、非常勤の先生方、大変お世話になりました。ありがとうございました。



香港で泊まったホテル



ピークから見た夜景



交流会本校



交流会分校